

活動名					
キャンドルのつどい					
概要	○火を囲んで、歌ったり、ゲームなどをしながら温かい交流の場をつくる。				
ねらい	○仲間とともに過ごす喜びを味わい、友情を深める。 ○静かに自分をみつめ、自己を高めようとする心情を培う。 ○火の神秘さや火の大切さに気づかせる。				
関連教科等	音楽・体育・総合				
指導形態	①自主活動で実施, ④外部講師による指導が可能(有料)				
時期	通年	時間帯	夜	対象	低学年～
場所	体育館(～200人) 1・2研(～80人) 第2ホール(～80人) 第5研修室(～40人)	人数	～200人程度	所要時間	1～2時間
準備物	施設で準備できるもの			団体・個人で準備するもの	
	放送用器具一式, テーブル, 営火長衣装 大燭台, 小燭台, ロウソク			スタンプ小道具 体育館シューズ(体育館で行う場合)	
進め方・展開例					
	内容			留意点	
活動前	○打ち合わせを行う。 ・物品の受け渡し(準備物参照)			○外部講師による指導の場合は, 活動内容について打ち合わせを行う。	
活動の説明	○キャンドルのつどいの流れ ○ロウソクの扱いについて (分火の仕方, 消し方と後処理)			○静と動のメリハリをつけさせる。 ○分火は火のついていないロウソクを火のついているロウソクに近づけるようにする。	
展開	※特に決められた形式はない。それぞれの団体の実態を考慮して実施することが望ましい。 ○事前準備(会場) ・中央におく燭台を設置しておく。 ・ロウソクと燭台(皿)を会場に運んでおく。 ・その他必要なもの(放送用具など)を準備する。 1部 火をむかえる 2部 火をかこむ 3部 火をおくる			○必要な役割例。 ・火の神 ・営火長 ・火の守(営火長アシスタント) ・火の司(司会者) ・火の子(班編成による) ○ロウソクと燭台(皿)は事務室まで。 ○施設のものを利用する場合は準備前に貸出しカードを記入。 ※ 活動資料「キャンプファイヤー展開例」ページ参照	
	まとめ	○余韻を大切にしたい。 ○楽しかったことやよかったこと, 感想など自由に話し合う。 ○火の始末をきちんと行う。			
評価	○仲間とともに楽しく活動し友情が深められたか。 ○自己を表現することができたか。				
発展	○火の神秘の力により心静かに自己を見つめるには最も適した活動である。仲間との友情をねらいとするには最もポピュラーであるが, 自己表現や自己を真剣に見つめ直すことに着目して実施することも有効である。				

<キャンプファイヤー展開例>

第1部 火をむかえる…聖なる火を持つ火の神を迎え、中央の火床に点火します。

【照明OFF】

- ① 集 合 —グループ別にファイヤー場とは別の場所へ。
 (営火長・火の守は、先に入場し席について入場者を迎える。)
- ② 入 場 —無言・無灯・静粛。
- ③ 整 列 —立ったまま、中央の火床を囲む。【ここから始めてもよい。】
- ④ 開会のことば —火の司(司会者)が、キャンプファイヤーの開会を宣言する。
- ⑤ 歌 —「遠き山に日は落ちて」

(火の司)「この島根県立少年自然の家にも夜のとぼりが降りてきました。しばらく雄大な自然の音に耳を傾けてみましょう。ただいまより、〇〇学校キャンプファイヤーを行います。それでは、今日一日のできごとを思い出しながら“遠き山に日は落ちて”を一番は歌で、二番はハミングで歌いましょう。」

- ⑥ 火の神入場 —ランプを持って、円内をゆっくりと一周し、営火長の横につく。
- ⑦ 採 火 —火の守(営火長アシスタント)がランプから採火し、営火長のトーチに点火する。
- ⑧ 営火長のことば—静かで落ちついた短い言葉。

(火の司)「営火長よりはじめの言葉をいただきます。」

(営火長)「火は、遠い昔から、私達に、生きる喜びや勇気を与えてくれました。火は、私達の生命でもあります。火を大切にすることは、自分を守ることに成るのです。しかし、この偉大な火も、使う人の心により、人類を闘争と破壊へと導くことにもなります。火を大切に使う心を忘れてはいけません。今、ここに燃える火は、ここに集う私達に、大きな勇気と自信を与えてくれるものと信じます。」

- ⑨ 点 火 —営火長が中央の火床に火を入れる。

(火の司)「営火長が火床に火を点火します。」

- ⑩ 歌 —「燃えろよ、燃えろ」「若者達」「手のひらを太陽に」「校歌」等

(火の司)「さあ、みなさん、今あかあかと火がともりました。この火が燃え上がり、天までこがすように“燃えろよ、燃えろ”を三番まで元気よく歌いましょう。」

- ⑪ 第1部終了

第2部 火をかこむ…グループや班で楽しいゲームや出し物を行い、友情を深めます。

【照明ON】

ゲーム・出し物 ——全体でのレクリエーションやグループごとのスタンプ発表。

(火の司)「さあ、燃え上がった火を囲んで、楽しいひとときを過ごしましょう。」

- ※ 2部は1時間程度でまとめる。
- ※ 2部の終わりごろには、火床の火を小さくする。
- ※ 2部終了後に全員にトーチを配る。

第3部 火をおくる…今夜自分たちを照らし続けてくれた炎に感謝し、仲間との友情を深めます。

【照明OFF】

① **歌** ——トーチをもって全員起立する。静かに心をしずめて3部に導入する。

「ふるさと」「旅の歌」「四季の歌」「たなばた」等

(火の司)「あれほど勢いよく燃えていた火も、いつの間にか小さくなりました。楽しかったこのファイヤーを胸におさめ、家族や友達、そして、みなさんを支えてくれているいろいろな人のことを思い出しながら”ふるさと”を1番は歌で、2番はハミングでうたいましょう。」

② **営火長点火** ——中央の火床から、トーチに火をつける。

(火の司)「中心で燃えている炎が、営火長に戻ります。」

③ **誓いのことば** ——火の子は、営火長の前に整列。営火長から営火をもらい、誓いのことばを述べる。

(火の司)「火の子は、トーチを持って営火長の前に整列してください。」

(火の司)「それでは営火長から火の守へ分火してもらいます。」

(営火長)「あなたには友情の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、この炎のように美しい心もち、変わらぬ友情を育てることを誓います。」

(営火長)「あなたには努力の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、この火に絶えず努力することを誓います。」

(営火長)「あなたには規律の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、きまりを守り、自分のことは自分であることを誓います。」

(営火長)「あなたには協力の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、みんなで力を合わせ、立派な子になることを誓います。」

(営火長)「あなたには希望の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、いつも明日を信じて進むことを誓います。」

(営火長)「あなたには奉仕の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、みんなで力を合わせ、みんなのために奉仕することを誓います。」

(営火長)「あなたには健康の火を与えます。」

(火の子)「私たちは、健康に気をつけ、粘り強く体を鍛えることを誓います。」

etc

④ 分 火 ——各火の子は、班員に分火する。

(火の司)「それでは、火の子は各班のみなさんに分火してください。」

⑤ 営火長のことば——静かで落ち着いた言葉で。

(火の司)「このキャンプファイヤーも終わりを告げようとしています。火を送るにあたって、営火長から終わりのことばをいただきます。」

(営火長)「楽しかったこのつどいも終わりに近づいたようです。今宵の私たちのつどいを照らし続けてくれた意義ある火を、永遠の火といたしましょう。そして、みなさん、これからも、お互いに、協力しあい、励ましあい、がんばっていきましょう。」

⑥ 閉会のことば ——火の司が述べる。

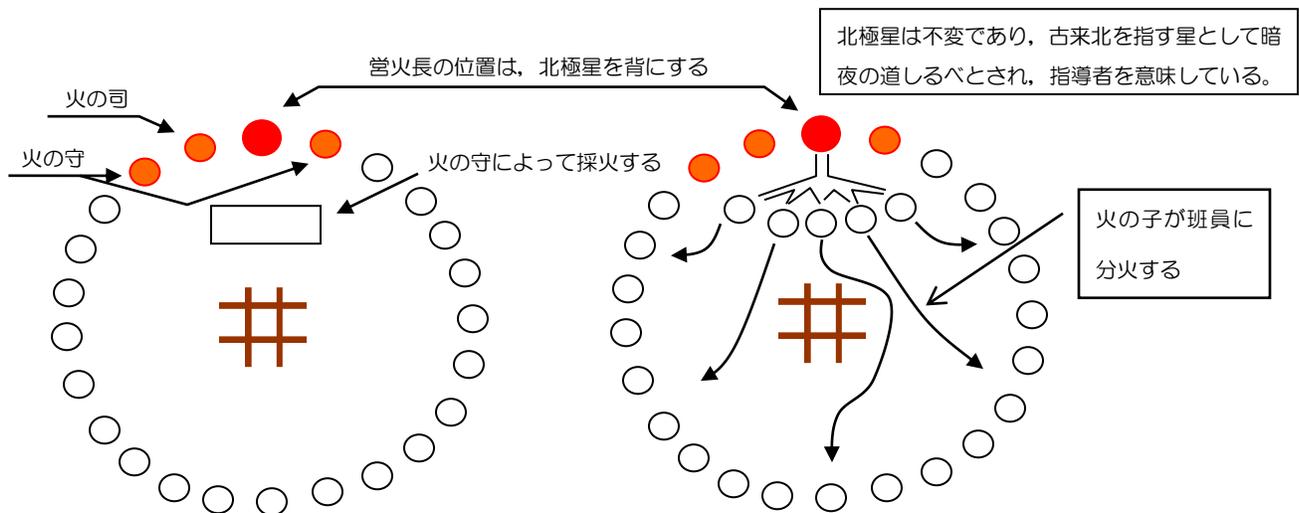
⑦ 歌 ——火の司の言葉が終る前より前奏に入る。

「今日の日はさようなら」

(火の司)「楽しいつどいの間、私たちを見守ってくれた炎も、今は、静かに消えてゆこうとしています。私達は、この宿泊生活を通して、とても素晴らしい経験を得ました。それらは、楽しく、また厳しく、生涯忘れることのできない思い出の一つとなることでしょう。この感激を胸に、明日から、また、新しい気持ちでがんばりましょう。今日のこのつどいを、小さくなった火とともに閉じたいと思います。」

(火の司)「これで、〇〇学校キャンプファイヤーを終わります。」

⑧ 退 場 ——歌の一番終了後、退場する。



※ 実施上の留意点

- ① 展開には定形はないので、各グループの創意を生かして実施する。
- ② 退場の経路、トーチの消し方（使用する場合に限り）等も指導しておくこと。

キャンプファイヤーを行うにあたってのオリエンテーション

(※あくまでも一つの例です。)

キャンプのメインイベントともいえるキャンプファイヤー。キャンプのすべてを持ち寄って共に囲む理想の火です。あなたはこのキャンプで、心が燃えましたか。このファイヤーで心を燃やしきり、「私のファイヤー」にしてください。ファイヤーの主役はあなたです。ファイヤーが楽しくなるのも、ならないのもあなた次第なのです。私たちは、そのお手伝いしかできないのです。

キャンプファイヤーは、1部・2部・3部からできています。

第1部では、燃え上がった炎をただ一つの理想として祈る儀式の時間です。したがって、入場のときから無言で、厳かに、心を「気をつけ」しなければなりません。炎を理想とするために、特別な儀式をします。心静かに祈ってください。笑ったり、声を出したりしてはいけません。歌を歌うときは、あなたの理想に届くように大きな声で歌ってください。

第2部では、明るく楽しいときをみんなの手でつくり上げます。いよいよあなたの出番です。嫌なことや辛いこと、すべてを忘れて、思いっきり歌い、踊り、楽しんでください。仲間との友情を深めてください。そのためには、心の殻を打ち破り、おなかの底から声を出し、思いっきり動き回り、時には、はしゃぎまわることも大切です。

スタンプの時は、しっかり観て、しっかり拍手してください。あなたの応援が、すばらしいスタンプを引き出します。演じるときは、大きな声で、堂々と。

第3部は、明日へ向かう火です。“ただ楽しかった”だけでは、本当の喜びは得られません。何かを手にしてください。自らを焦がして光と熱を与え、何の代償も求めないで大地に還っていく火を見つめながら、自分の生活を振り返ってみてください。共に楽しんだ仲間のすばらしさをかみしめてください。ここも第1部と同じように心静かに行い、おしゃべりはしないでください。お話しの中で、呼びかけや問いかけがあっても、心の中だけで答え、声には出さなくてください。

ことば集

(1) 点火のことば

静かな夜のとばりに包まれ、神々の祝福に見守られながら、私たちは今、キャンプ生活最後の、そして最高の喜びをもたらす火を迎えました。苦しかった火おこし、煙に泣いた炊飯、楽しかった野外活動。その中からいくつかの貴重な生活技術を体得し、新しい知識や考え方を学び、すばらしい友達をつくり、また、私自身のかくれた一面をも見つけ出したような気がします。

このキャンプでの多くの収穫は、必ず今後に生かさなければならぬと強く感じました。

豊かな思い出をいっそう感銘深く胸の奥に刻み込むためのキャンプファイヤーにみんなの情熱を結集しましょう。

(2) 営火長のことば

みなさん！みなさんとともに今宵このキャンプファイヤーを囲むことができる幸せに、まず感謝を捧げましょう。

そして、静かに、この火を見つめましょう。

みなさんたちは、この火の中に何をみますか。

この火は、人間の「かしこさ」をあらわします。火はあつかい方によっては、たいへん危険なものです。私たち人類は、「かしこさ」によって火をコントロールし、生活に生かすことができるようになりました。いつまでも創意工夫し、「かしこさ」をもち続ける人間になりましょう。

次に、この火は「情熱」をあらわします。すなわち、エネルギーそのものです。私たちの心と体を誰彼のへだてなくあたためてくれます。いつまでも燃えつきることのない情熱と温かい豊かな心をもち続ける人間に、そして、勇気ある人に成長してください。

さらに、この火は「団結」を意味します。営火のやぐらを見ましょう。1本、1本の木では火は燃えません。それぞれの丸太や小枝が助け合って大きな火となります。個人、個人の役割とその協力、共同、奉仕のあり方を学びとってください。

それでは、私たちの人間関係をこの火のもとにいっそう固く結びつけるためのキャンプファイヤーをはじめましょう。

(注) 営火長のことばは、キャンプの精神、営火の意義、友情・団結・奉仕・勇気など、また小学生などでは火にちなんだ話などキャンパーに感銘を与えるような内容と話し方が必要。あまり長くならず、5分以内くらいにとどめる。

【その他火の話】

① 幼児向け

今、木が燃えはじめました。この太い木も、はじめはたった一粒の種でした。暖かくて明るい太陽の光を受けて芽を出し、小さな木になりました。小さな木は、1年、2年、5年、10年と毎日太陽の光を受けて、大地から栄養をもらい、雨で水をもらいたくさんの枝を伸ばし、大きな木になったのです。

ここで燃えているのは、長い間ためてきた自然のエネルギーなのです。じっとこの炎を見つめましょう。この炎は自然からの贈り物です。楽しいキャンプファイヤーができるように、明るく、暖かくしてくれているのです。

② 小学生向け1

燃え上がる火を見よう。生きている赤い火、暖かい火、生の火です。この火が人間と獣を分かち、私たちの文化を築く源となりました。昔の人は火を大切にしました。料理をしたり、灯火としたり、生活に欠くことのできないものだったからです。一方、火は恐ろしいものでもあります。取り扱いを間違えると、またたくまに野原や森や林を焼き尽くしてしまいます。ですから、私たちはこの火を大切に正しく使わなければなりません。

この火をしっかりと見つめてください。自らを燃やし、私たちに光と熱を与えてくれるその姿は、思いやりの姿を教えてください。さあ、今夜はこの明るい火に負けないように、大声で歌い、笑い、踊り、心を開いてすばらしい思い出を作りましょう。

③ 小学生向け2

今、こうして燃えている火は、数分前まで何も見えなかったこのつどいに明るさを与えてくれ、一人一人の顔を見せてくれています。火は遠い昔から私たち人間に、生きる喜びや勇気を与えてくれました。火は自らを焼き尽くしながら、光と熱を与えてくれます。火は私たちの命ともいえるものです。この燃え上がる火を見ていると、体が暖まるだけでなく、心まで暖かくなってきます。今日は、そんな火の暖かさにドップリつかって楽しいキャンプファイヤーにしましょう。

④ 中学生以上向け1

今、女神が運んでくれた炎が点火されました。この炎をじっと見つめてください。私たちに、協力、団結、理想、愛を語りかけてくれます。

協力。薪が1本だったら、小さな火にしかなりません。それが何本も集まり、お互いがお互いを燃やし合い、協力して大きな炎になっているのです。

団結。このファイヤーの井桁は、それぞれの薪が崩れる事なくしっかりと支え合っています。そして、空気が通りやすく薪が燃えやすいように組み合わせられているのでよく燃えるのです。

理想。たった一つの火です。高く神々しく燃える火は、暗闇の中で私たちを照らし、私たちに行く

先を導いてくれます。少しでも、理想に近づきたいものです。

最後は愛です。火は自らを燃やしながらか明らさと暖かさを与えてくれます。火が燃えれば燃えるだけ、みんなを輝かせます。この暖かさと優しさは、自然を愛し、人の命を愛することに通じます。この炎を囲んで、楽しいつどいを過ごしましょう。

⑤ 中学生以上向け2

“一期一会”という言葉があります。今の出会い、今このときはもう二度と還って来ないという意味ですが、まさに、今燃え上がっている炎とここに集った皆さんとの今の出会いはもう二度ともつことはできません。過ぎ去った一瞬を取り戻すことは決してできません。今燃えて、私たちに光と熱を与えてくれている薪は、その二度とない命をかけています。輝く一瞬一瞬を積み重ねることで、光り続けることができるのです。今日はあの薪のように、悔いのない時にしたいと思います。今夜は心のかみしめを脱いで、命を燃やして、明日につながる価値あるときを、あなたの歌声と、手拍子と、祈りを束ねて作り上げようではありませんか。

(3) 誓いのことば

① 友情

私たちは、この炎のように美しい心を持ち、変わらぬ友情を育てることを誓います。

② 努力

私たちは、この火に絶えず努力することを誓います。

③ 規律

私たちは、きまりを守り、自分のことは自分ですることを誓います。

④ 協力

私たちは、みんなで力を合わせ、立派な子になることを誓います。

⑤ 希望

私たちは、いつも明日を信じて進むことを誓います。

⑥ 奉仕

私たちは、みんなで力を合わせ、みんなのために奉仕することを誓います。

⑦ 健康

私たちは、健康に気をつけ、粘り強く体を鍛えることを誓います。

(4) 分火の言葉

今、みんなで共に作り上げたファイヤーが終わろうとしています。楽しかったこと、仲間と協力したこと、このキャンプで学んだことをみんなで分け合いたいと思います。心の中に“火”を灯し、あなたの町、あなたの家、あなたの学校に持ち帰り灯し続けてください。さあ、新しい希望に向かってたくましく歩み出してください。

(5) 結びのことば

① 学校向け1

キャンプファイヤーを終えようとする今、天の神々に、大いなる自然に、そして共に助け合ったみなさんたちと厳しい中にも親切にご指導いただいた先生方に、もう一度、深い感謝を捧げます。

さらに、火というものが、これほどすばらしいものであることも初めて経験した楽しいキャンプファイヤーでした。

私たちは、今、一つの決心をしました。これまでの日常生活を深く反省し、新しい目標をそれぞれの胸の中に立て、この火の光りに助けられながら、それを大切に育てていくことを……。ありがとうございました。みなさんも一緒に……。ありがとうございました。

② 学校向け2

すばらしいファイヤーでした。みんなが力を合わせて頑張ったからすばらしいファイヤーになりました。

あんなに赤々と燃えていた炎も、今は静かに大地に還ろうとしています。でも、みんなの心の中には、赤々と燃え続ける炎が見えると思います。目を閉じると、一生懸命燃えているファイヤーと、その周りで楽しそうにしているみんなの顔が見えます。このすばらしい体験を一生持ち続けてください。このキャンプで学んだ協力の大切さや仲間のすばらしさを、これからの生活の中に持ち帰ってください。

③ 一般向け

いよいよこのファイヤーも終わりに近づきました。煙に涙しながら作ったご飯、道に迷いながらのオリエンテーリング、消灯後も尽きることのなかった話し合い。すばらしい体験と友達を得たことと思います。このキャンプでの出会いをいつまでも大事にしてください。お互いの友情と信頼の火を灯し続けてください。

みんなで囲んだ火。あんなに燃え盛り、大きく明るかった火も、今はこんなにも小さくなってしまいました。やがてこの火は消えてしまいますが、皆さんの心の中の火は消えることがないでしょう。心の中の火が次々に広がり、仲間の和に、未来を照らす火になることを祈りましょう。

一週間後の今日、私たちはどんな過ごし方をしているのでしょうか。普段は、文明生活に慣れ切っている私たちです。でも、ここに集まって本当にすばらしいキャンプをもつことができました。この地球という自然の中で生きていることが確かめられました。

私たちは、自然から何を感じ、火から何を学び、仲間から何を知ったのでしょうか。そして、仲間に何を贈ることができたのでしょうか。火はやがて消えていきますが、私たちの心の中に燃え上がる“火”を大切に、いつまでも燃やし続けたいものです。

(6) キャンプファイヤーの火について…4つの教え

① 火は、光を放つ。

火は、世の中を明るくする光であり、道しるべである。

社会の担い手の一人ひとりとして、世の中の光となり、社会を明るくする役割のあることを教える。それは、人間として、無意味な人生を送るのではなく、目標をもち、人生の道しるべとなる意義ある生き方を教える。

② 火は、熱を与える。

火は、人びとを抱く暖かい熱を与える。

熱は冷えきった身体に、暖かい血をよみがえらせ、心に通わせる。それは、わがまを捨てて他を省み、人を愛する暖かい心をもつことの尊さを教える。

③ 火は、力を示す。

火は、全てのみにくいものを焼き尽くす力である。

赤々と燃える火も、一本一本の薪が、お互いに組み合わせられてこそ、小さな炎から大きな明るい熱をもった力強い炎となる。それは、人と人との協力と協調の中にこそある力強い生き方を教える、また、人間の勇気と清らかさを教える。

④ 火は、自らを焼き尽して、光と熱を与える。

火は、自らを焼き尽して働くところに、謙譲とかくれた善の行ない、犠牲と献身の尊さを教える。それはまた、奉仕の精神にもつながる。